

## 4大学連携カリキュラムの授業が実施される

## チーム医療演習

チーム医療演習は31名の学生（医学科8名・看護学科6名・薬学部7名・理学部10名）が参加し、8月3日（月）～8月5日（水）の日程で、森林公園ホテル・ヘリテージ（埼玉県熊谷市）にて合宿による演習形式で実施致しました。今回はチーム医療と医療安全をテーマにあげ、それぞれのテーマに関する講演（チーム医療：医学科岸太一講師、医療安全：佐倉病院 加藤良二教授、大森病院 渡邊正志准教授）や同職種、あるいは異職種間グループによるグループディスカッションとその成果の発表が行われました。作業が進むにつれて、学生間の交流が活発になっていき、将来の多職種連携のために必要な相互理解を図ることができたようでした。



## チーム医療演習に参加して

●医学科4年 森戸 知宏

今回のチーム医療演習には全学部から学生が参加し、各職種の専門性や役割チーム医療を進めるうえで必要なものなどについてグループワーク形式で意見を出し合いチーム医療のあるべき姿を考えるという内容だった。



学生間の雰囲気としては、最初は初対面ということもあり硬さがあったが、時間が経つにつれ各学生が自分の意見を積極的に発するようになり、最終的には素晴らしいディスカッションを重ねることができたと思う。個人的には特に、実際の現場における仕事や、互いの学科のカリキュラムなどについて意見交換を行ったことが良い経験となった。

グループワークを通じて、各グループのチーム医療達成への必要要素をまとめると、「チーム医療」を成し遂げるには、将来自分が就く職業に求められる役割を果たすことは当然である。そして各医療スタッフへのリスペクトを忘れず、「すべては患者さんのために」という共通目標を持つことが大切であり、それをしっかり自覚することが必要ということだったと思う。今回の体験は、自分にとって非常に良い演習となった。